

本学は、下の地図に示されている 6 カ国・地域の10大学と大学間交流協定を結んでいます。このうち、上海体育大学（中国）、韓国体育大学校（韓国）、国立体育大学（台湾）、天津体育学院（中国）の4大学とは学生交流（交換留学）を行っています。交換留学生は学内選考を経て決定されます。留学期間は1年以内で、1大学当たり2名までを派遣しています。

交換留学においては、協定校で取得した単位を本学の単位として認定するための単位認定制度があります（ただし、協定校で取得した単位すべてが必ずしも本学の単位として認定されるわけではありません）。

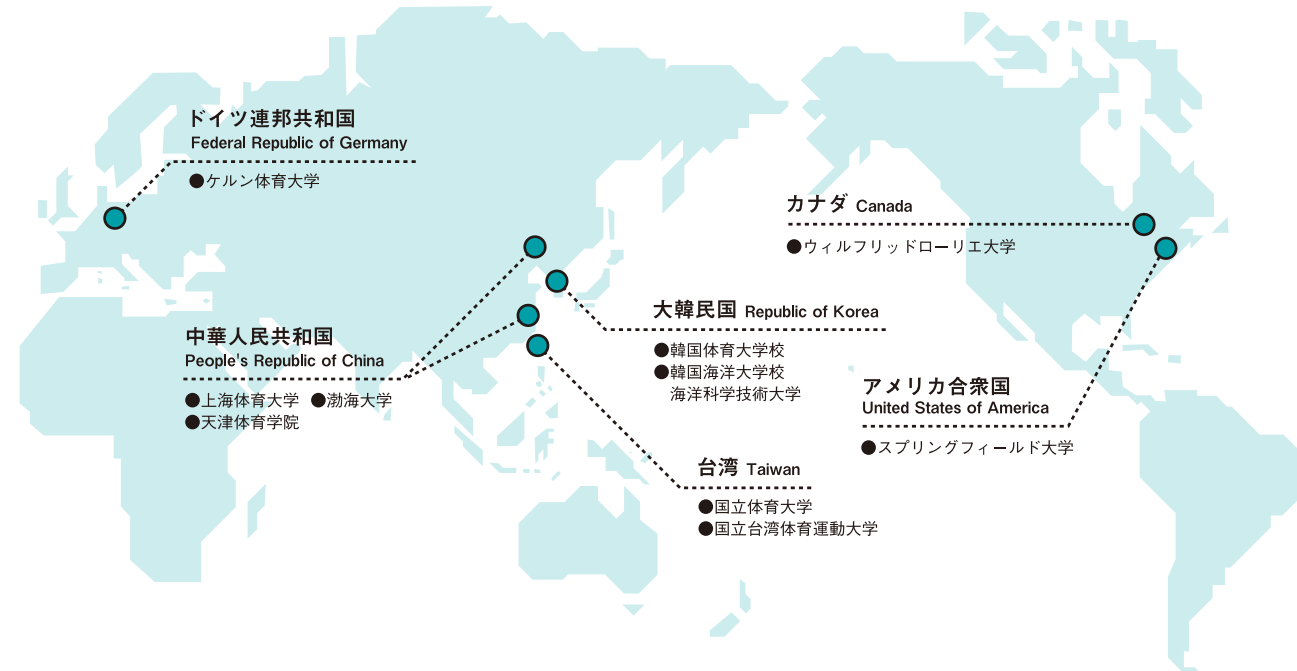
この他、本学とJICA（国際協力機構）はJICA海外協力隊連携派遣に関する覚書を締結し、2025年2月から2027年3月までの3年間にわたり、本学柔道部の学生をペルー共和国に派遣します。

外国人留学生在籍状況（令和7年5月1日現在） 単位：人

国・地域	学生区分別内訳				計
	大学院生	学部学生	特別聴講学生	研究生	
韓国			1		1
中国	7	2	3	1	13
モンゴル				1	1
計	7	2	4	2	15

※「特別聴講学生」は、交換留学制度により交流協定大学から本学へ留学している学生です。

大学間交流協定状況（令和7年5月1日現在）



大盛り上がり玉入れ競争！

国際交流の取組紹介

令和7年1月21日に、台湾の逢甲（ほうこう）大学で日本語を学ぶ学生と、本学学生との交流イベントを実施しました。本学の学生とスポーツを通して交流を深め、言葉の壁を越えたコミュニケーションを促進し、両大学の学生にとってグローバルな視座を養う契機となることを目的として企画されました。前半は双方の大学紹介を含む交流を行い、後半は参加者が一緒に体験するスポーツを通じた交流の一環として日本の運動会を行いました。後半のスポーツを通じた交流では、玉入れとスプーンを使ったボールリレーを赤組・白組・青組のチーム対抗戦形式で行いました。玉入れの玉を日本語と一緒に数えたり、小さなボールをスプーンから落とさないように慎重に運ぶ姿などが見られ、楽しみながらも両学の学生が共にチームワークを大切に、真剣に取り組む姿勢がみられました。

留学生からのメッセージ

学生時代に鹿屋体育大学で交換留学を経験し、日本のスポーツ文化や教育システムを深く知る機会を得ました。さらに専門性を高めるため、鹿屋体育大学の修士課程へ進学する道を選びました。現在は、国際スポーツ開発と社会心理学を中心に研究しています。留学生活では、異文化間でのコミュニケーション能力や課題解決のための柔軟性が求められましたが、それらを克服する中で大きく成長したと感じています。この素晴らしい環境で学ぶことができることに深く感謝しています。この経験を生かし、国際的な視野を持ちながらスポーツがもたらす社会的影響について探求していきたいと思います。

王 鈺勅 WANG Yuqing

課程・学年：大学院体育学研究科スポーツ国際開発学共同専攻2年
出身地：中国



留学生からのメッセージ

日本に来て2年間、北海道から九州までの「縦断旅行」を経験しました。慣れた環境を離れ、まったく未知の環境へと足を踏み入れることは、誰にとっても大きな試練です。しかし、居心地の良い場所から一步を踏み出したからこそ、大きな成長を遂げることができました。鹿屋体育大学での学生生活は、体育・スポーツの専門知識を学ぶだけでなく、心身の成長や自己探求の貴重な過程でもあります。この留学経験は、生涯にわたる財産になると確信しています。ぜひ、スポーツを通じて未来を切り拓き、自分自身を創り上げていきましょう。

陳 真 CHEN Zhen

課程・学年：大学院体育学研究科修士課程2年
出身地：中国

